

## 活動を通して学んだこと

活動先：NPO 法人 チャレンジド

この一年間サービスラーニングの活動を通してさまざまな経験をさせていただき、多くのことを学んだ。

4月の当初は、NPOという言葉の意味を聞いてもいまひとつ想像できないでいた。自分はサービスラーニングで何をしたいのか、何を学びたいのかもあまり明確ではなかったため、一年間楽しくできるのかという不安の気持ちで初めの頃は参加していた。

4月末に行われたNPO現場見学バスツアーで、実際に現場を見てNPOというものが分かり、NPOに対するイメージが少し変わった。その後自分の活動先を選択する際に数多くある中から、子どもとふれ合いながら活動をしていくNPO法人チャレンジドを選択した。高齢者分野にも興味があったが、子どもが好きということやいろんな分野について学びたいと思ったのが選択した理由である。

チャレンジドでは、障害児の子を対象にした日中一時支援やイルカふれあい体験などを参加させていただいた。その中でも特に印象に残った活動は、日間賀島へイルカとのふれあい体験に行ったことである。障害児の子どもと一緒に、チャレンジドのスタッフや地域の中学生で日間賀島へ行き、そこでイルカに触れるという体験をした。子どもたちはイルカを恐がることなく、エサをあげたり、イルカの背中を触ったりしている。その姿を見てとても楽しそうであり、私自身も貴重な体験であったと感じた。

このイルカふれあい体験は、企画の段階からチャレンジドのスタッフと一緒に進めていったので、準備の大変さや周りの人のサポートと協力が大切だということが分かり、企画をする側の大変さについて初めて知ることができた。また子どもにとって、いつもと違う場所で遊ぶことは、ストレスの解消になったりもするが、逆に慣れない環境で遊ぶことに理解できない子や難しい子もいたり、準備の段階では気づかなかったことがいくつか見られた。それでもやはり、子どもたちが一瞬でも笑ってくれたり、楽しそうに遊んでいる様子を見ると、この企画ができて良かったと感じた。スタッフからも「また来年もぜひやりたい」と言っていただけたことが嬉しく、参加者全員が楽しめた企画を行うことができて、とても達成感を感じることができた。

イルカふれあい体験の後に活動した日中一時支援では、事前にいくつかレクリエーションを考え、子どもたちと一緒にやる計画をしていた。しかし、一人一人の個性の違いや集団で同じことをするのが苦手という子もいるため、結局レクリエーションは一度もできずに終わってしまった。事前に材料なども準備していたため、レクリエーションができなかったことは残念であった。もう少しスタッフに話しを聞いたりし、他のことをやれば良かったと思うが、今回この失敗で学んだことは次に活かしていけるはずである。

障害のある子が集団で何かひとつのことを行うという難しさや、一人一人の性格にあったあそびをする方が、その子自身も楽しく遊べるということが分かり、またひとつ学んだ。

日中一時支援を行って行く中で、一日中同じ子と一緒に遊ぶことが多かったが、その子の性格、障害の状態について知ると、その子をよくみてコミュニケーションを取って行くことが大事だと感じた。子どもと長く付き合うことで顔の表情や行動で気持ちを表していることが分かってくるので、コミュニケーションを取ることが苦手だったり、難しい人とも深く関われるということが学べた。

この夏休み中にチャレンジドで活動してみてわかったことがいくつかある。チャレンジドは、古い民家で事務所も小さいけれど、そこで働くスタッフはどの方も優しく、温かくて、何をすることも真剣に取り組む姿をみて、とても熱意があることに気づいた。

まだ地域のほんの一部にしかチャレンジドという存在を知られていないように感じる。もっと地域の人にチャレンジドを知ってもらい、支え合いながらいけば、今よりも活動範囲が広がりいろいろなことができるようになるのではないだろうか。

チャレンジドのように、障害児の放課後支援を行っている所は美浜町には無く、知多半島全体を見ても数少ないことが、グループで調べた結果分かった。またチャレンジドを利用している障害を持つ子どもの保護者の方にアンケートを取り、その中に「ショートステイが必要」という声や「24 時間緊急対応できる場所」などという回答があった。このようなニーズに応えるには、チャレンジドだけでは足りなく、もっと多くの障害児支援を提供するサービスが必要である。今保護者の方にとって、チャレンジドはとても大きな存在であり、安心して子どもを預けられる場所だということがわかった。このような施設や支援をもっと増やしていく必要があり、障害をもった子どもたちにとっても、いろんな人と交流することで、ひとつの成長に繋がるのではないかと考える。

今回の活動では、今までにない経験が数多くあり、自分自身の中でも活動前と気持ちが変わったように感じる。最初の頃は、障害児の子とどのように接したら良いのか、上手く対応できるのか等、不安や心配ごとばかりでしたが、イルカふれあい体験や日中一時支援をしていく中で、障害の度合いや症状について理解するようになり、その子に合ったコミュニケーションの取り方も少しずつ分かるようになった。障害のある子どもとふれ合うのは今回が初めてであったが、長い時間一緒にいることで、一人一人の特徴や性格について気づけるようになり、活動前に比べてたくさんのことを学ぶことができたと感じている。

この活動をきっかけに重度訪問介護の資格を取り、ヘルパーとして活動しているので、これからもチャレンジドとの交流を深めつつ、いろんな方との関わりを深めていきたい。

一年間サービ斯拉ーニングで活動をし、本当に多くのことを学ぶことができ、自分自身の成長にもつながった。サービ斯拉ーニングで活動できたことを嬉しく思い、それを今後活かせるよう努力していきたい。